

# BEST / TEACHING AWARD

学生による学生のための  
授業パンフレット

2020年3月

vol.4



駒澤大学FD推進委員会  
学生FDスタッフ



## 特集：令和元年度

## 学生が選ぶベスト・ティーチング賞

### ベスト・ティーチング賞 とは？

年に一度、学生が駒澤大学の  
「教育」について考えるこの企画は  
学生が主となって運営しています。  
あなたにとって、ベストって何ですか？

### 令和元年度受賞者 インタビュー

全受賞者インタビュー！  
先生方は授業に対してどのような  
工夫・努力をしていらっしゃるのか？

### 学生FDスタッフが厳選★ 授業コメントセレクション

学生スタッフが、投票コメントを基に企画・  
選出しました！  
学生の生のコメントは  
きっと履修の参考になるはず。



## 「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」企画概要



### ➤目的

学生から見て良いと思われる教育方法を実践する教員を表彰し、その教育方法を全学的に共有することで、駒澤大学全体の教育の質を向上させる。

### ➤投票受付期間

2019年11月4日(月)～23日(土)

### ➤投票できる者

駒澤大学の全学部生(14,919名)

### ➤投票対象科目

2019年度の全開講科目(4,582科目)

### ➤投票方法

C-Learningにログイン後、今年度履修している科目に限り1人1科目投票可能

### ➤投票総数

1466票 (うち有効票1377票)

### ➤集計方法:

#### ①学生が選ぶベスト・ティーチング賞

各科目の得票数を単純合計

※科目名と担当教員が同じものは、開講時限が異なるものも同一科目とした

※今年度履修していない科目に投票している場合、コメントに詳細の理由が記載されていなかったり、誹謗中傷が含まれる場合は無効票とした。

#### ②もっと学びたいde賞

専門教育・全学共通科目を対象に、総得票数上位各3名を除いたうちQ8.「Q2で回答した科目について、あなたは「学生が主体的に学ぶことのできる科目」であると、どのくらい思いますか?」という問いの総得点の高い各1名(計2名)を選出



## 学生が選ぶベスト・ティーチング賞 受賞8科目紹介

【赤字】 学生が選ぶベスト・ティーチング賞受賞者 【青字】 もっと学びたいde賞受賞者

### 全学共通科目

	科目名	教員名	職位
1	心理学	小野 洋平	非常勤講師
2	文学	畠山 寛	准教授
3	日本の文化と社会	加藤 之晴	非常勤講師
4	ドイツ語 I Ab	吉中 俊貴	准教授
5	健康・スポーツ論 2	出井 章雅	講師
6	心理学	加藤 博己	非常勤講師
7	倫理学	古田 知章	非常勤講師
7	仏教と人間	吉村 誠	教授
7	キャリアデザインC	高野 龍一	非常勤講師
10	倫理学	相松 慎也	非常勤講師
10	仏教と人間	徳野 崇行	准教授
10	教育臨床	遠藤 司	教授

### 専門教育科目

	学部	科目名	教員名	職位
1	法	刑法総論	富樫景子	講師
2	経営	経営戦略論	中村公一	教授
3	法	民法総則	熊谷芝青	教授
4	経営	マーケティング論	兼村 栄哲	教授
5	法	行政法	高田 実宗	講師
6	経営	組織行動論	高木 俊雄	非常勤講師
6	経営	企業と社会	山下 裕介	非常勤講師
6	GMS	グローバルマネジメント	各務 洋子	教授
6	経済	キャリア・デザインa	川村 稔	非常勤講師
10	経済	社会経済学a	明石 英人	准教授
10	法	国際関係論	三船 恵美	教授
10	法	現代政治理論入門	山崎 望	教授
10	経済	マクロ経済学	井上 智洋	准教授

# 全学共通科目 受賞科目インタビュー

BTA



## 「心理学」

文学部 心理学科  
小野 洋平 先生

### Q：受賞された感想はいかがですか？

去年も受賞はしていますが、今年は今年、常に新鮮な気持ちで臨んでいます。学生さんと双方のコミュニケーションをとるために色々工夫して授業を進めてきたので、その点が評価され非常に嬉しく思います。

### Q：受賞された要因は何だと思われますか？

一つ目はリアクションペーパーを次の週に全員にコメントをつけてお返ししたことです。学生さんにとって質問しやすくなったり、話しやすい環境を整えることで、授業への理解や学習効果が高まったのではないかと思います。

二点目は学生さんが主体的に考えられる授業を心掛けたことです。自由記述のアンケートを行いリアルタイムで返答・疑問の提起をします。学生さんにとって受動的学習にならないように心掛け、受講者全員で疑問を共有・解消することで心理学への理解が深まったのではないかと思います。

### Q：授業内で工夫していることはありますか？

大人数の授業なのでコミュニケーションがうまくとれず、一方的になりがちな点をいかに改善していくか考え工夫しました。授業内アンケートではall or nothingの回答形式だけでなく、自由記述形式でも行い結果を学生さんと共有することで様々な考え方があって、それを知ることができて良かったという声を頂きました。改善点としては、リアルタイムに質問を受け付けるためYeStudyを使って質疑を受け付けようとしたら、学籍番号が出るために匿名じゃないと質問しづらいという学生さんに対してうまくいかなかった点ですね。

### Q：来年度への意気込みは？

個人的には研究と教育の両立を目指していきたいと考えています。自分のやる研究がそのまま実践として授業に応用できたらいいですね。説得力のあるデータを提示しながら学生さんに心理学への理解を深めてもらい、学んだままで終わらせるのではなく自分の専攻などに活かしてもらえるように、もっと授業の工夫をしたいと思います。

### 受講生からの投票コメント



- ◆アニメーションや映像の利用、実験などを授業で行うなど、興味を持って意欲的に勉強する環境を整えてくださる。質疑応答をスマホで行えるため、疑問に思ったことを周りの目を気にせず質問でき、その場で解説を聞けるのがとても良い
- ◆質の高いリアクションペーパーでのやり取りが魅力的

※コメントは、抜粋・整理したものです





## 「文学」

総合教育研究部  
外国語部門  
畠山 寛 先生

### Q：受賞された感想はいかがですか？

昨年と違う科目で受賞でき嬉しく思います。そしてドイツ文学は私が研究してきたことなので、学生に面白いと思っていただいたのが1番嬉しいです。文学は最近あまり読まれならしく、授業を始める前はすごく不安だったのですが、授業をやっていく過程で興味を持ってもらえるように工夫をした甲斐がありました。

### Q：授業内で工夫していることはありますか？

授業の流れとして、①前回授業で提出してもらったリアクションペーパーから数名ピックアップし読み上げる、②作品のメインテーマとなる問いを、最初に課題として問いかける、③学生に問いに対する考えを聞いて回る、④作品の詳細説明をする、⑤最後に②と同じように学生に問いかけリアクションペーパーに回答してもらい、と1回の授業で1作品を取り上げ、全11作品を扱いました。受講者数は130～140名なのですが、その全員からリアクションペーパーを提出してもらい評価をつけて毎回フィードバックしています。

正解のない問いに対して、学生の数だけ考えや答えがあります。違いや類似点を共有し他の考え方を知ってもらう過程で、文学を知らない学生にも興味を持ってほしいという気持ちで授業を構成しています。

### Q：学生に期待することはありますか？

是非、この授業を取ってくれた学生さんには、引続き本を読んでほしいです。文学は、読めば知識が増えるものではありません。何故だろう？自分だったらどうするだろう？どのように世界を見てきたんだろう？等という問いがあります。問いがあるということは考える材料があるということですね。それに対する課題や答えは一つではないですし、答えは無くても良いと思っています。

人生長いですが、なかなかゆっくり読むことはできないので、ぜひ学生時代にたくさん考えながら文学作品を読んでほしいです。

### 受講生からの投票コメント



- ◆ドイツ文学を通して歴史や哲学、社会、価値観など様々なことを自分で考えたり、他の学生の意見を聞くことができ、とてもタメになる。
- ◆授業の最後に必ずリアクションペーパーに、授業で読んだ話に対する課題と自分の意見を求められるので、思考力が鍛えられた。
- ◆自分では読まない文学の本に興味を持つことができた。

※コメントは、抜粋・整理したものです

# 全学共通科目 受賞科目インタビュー

BTA



## 「日本の文化と社会」

総合教育研究部  
文化学部門  
加藤 之晴 先生

### Q：受賞された感想はいかがですか？

正直かなり嬉しいですね。でも去年は2位だったので、「ん？」って感じではありますが（笑）  
投票数自体がすごく増えた中でのベスト3なので「まあ、いいかな」と。  
BTAは今年度履修している授業にしか投票できない仕組みなので、昨年とは違う新たな学生たちから票をいただけて、「やったな」という気持ちでとても嬉しいです。

### Q：受賞された要因は何だと思われますか？

特に昨年と違うことをやったとか、新しいことに取り組んだということはありません。  
基本的に私の授業の根っこには「文化人類学」というタイトルがあるんです。  
「文化」というのは人間が作り出したもので、それについて考えます。  
つまり人間が作り出した文化にまつわることであれば、  
授業において何を取り上げてもOKなんですよね。  
学生にとって身近なものを例に挙げやすい。  
学生が身近に感じる事例をモニターに映して授業を進めていくので、  
理解しやすいのではないかと思います。

### Q：来年度への意気込みは？

ベスト3を狙いたいと思います。  
1位になっちゃうとFD研修会で講演しないといけなくなるので…（笑）  
2位か3位を狙います。

### 受講生からの投票コメント



- ◆授業以外にも役立つ教えが得られた。
- ◆授業の内容に沿った映像や画像で説明されたので、理解しやすかった。
- ◆授業内容が日々の生活に自然と馴染んでくるので、日々様々なことに疑問を持つようになる。先生の話がとても面白い。
- ◆工夫されていると感じた

※コメントは、抜粋・整理したものです



## 「刑法総論」

法学部  
富樫 景子 先生

### Q：受賞された感想はいかがですか？

「嘘じゃないですか？」と聞くほど驚きました。プレッシャーも感じますがとても嬉しく思います。

### Q：受賞された要因は何だと思われますか？

それが分からないんですよ（笑）私の授業は、黒板への板書と教科書、レジュメの配布、と他の先生方の様に斬新な授業をしているわけではありません。もしあるとすれば、授業アンケートで学生さんからもらったコメントで「非常に熱心である」と言われたことがあります。私は楽しくみんなに分かってほしいという情熱を持って授業に臨んでいるので、それかもしれません。

### Q：授業内で工夫していることはありますか？

私語が気になるという学生さんの意見を聞きますので、最初の授業で私語厳禁のルールがあることを伝えたくて、私語を徹底的に排除して静粛な環境作りをしています。もし私語が気になった時は怒るのではなく、楽しく注意するように心掛けています。

次に、集中力が続くように、私が黒板を消している間は自由な時間・休憩時間として、授業にメリハリを作るようにしています。

あとはとにかくノートをたくさんとってもらうこと。「聞いたことは忘れる、見たことは覚える、やったことは分かる。」という言葉にあるように、ただ授業を受けるだけでは理解した気になってしまいます。学生さんにとって理解度と定着度が高まるように私も黒板にたくさん書きます。

### Q：板書の際に気を付けていることはありますか？

基本ですが、教場のどの位置にいても分かる大きな字で書くこと。またイラストや図をたくさん書いて視覚的に分かりやすい黒板を目指しています。

### Q：来年度への意気込みは？

できるだけ多くの受講して下さった学生さんに、刑法は楽しいと思ってもらうこと、そして一人で勉強できるようになってほしいと思っています。私は学生さんが勉強するときの補助輪のような役割を担っていると思っていて、私に教えてもらうことが前提ではなく、自ら教科書を読んで勉強できる力をつけてもらうことが私の目標です。これからも粛々と頑張っていきたいと思っています。

### 受講生からの投票コメント



- ◆学生が集中して授業を受けられるよう工夫されている。
- ◆学習意欲が上がりやすいと感じた。
- ◆後で復習しやすいレジュメに、授業も丁寧な説明で理解しやすい。先生の一方的な講義ではなく、生徒に話しかけるように進めてくれるので、置いてけぼりにされないのがとても良いです。

※コメントは、抜粋・整理したものです

# 専門教育科目 受賞科目インタビュー

BTA



## 「経営戦略論」

経営学部  
中村 公一 先生

### Q：受賞された感想はいかがですか？

嬉しいですね。学生が主体となって取り組むこのイベントは全国的に見て珍しい。とてもありがたいです。個人的に授業内で自由記述のアンケートを取るんですが、その中でも「専門知識とか生き方がよく分かった」という声を聞くので嬉しかったです。

### Q：「生き方が分かる授業」とは？

「経営戦略論」は企業間の競争について分析し、他の企業よりいかにして優位に立つかが大きなテーマです。私は経営戦略論の知識だけを教えているのではなくて、その知識をどう使って世の中で生きていくのか、駒大生の優位性について就活の時や働き始めた後も活かせるように、伝えています。

### Q：4年連続して受賞された要因は何だと思われますか？

要因は、私が学生だったらタメになる授業だと思う授業、私が学生の頃に受けたかった授業を行っていることでしょうか。駒大生に特化した授業なのでそれも要因だと考えられますね。

### Q：授業内で工夫していることはありますか？

2週間に1回アクションペーパーで課題を課し優秀な内容を授業で発表しています。学生が一人で行き詰ると、他の人の意見を聞いて取り組むのでは書く内容が変わります。学生全員が優秀な内容を吸収していくので、アクションペーパーを用いた課題は良く機能していると思います。あと専門教育科目なので、実際の事例や知識などを扱います。実際に企業で働いたという経験を持つ学生は少ないので働くイメージを持ち難いと思うんです。だから、漫画形式にした教材を利用したり、アニメやタレントを利用したりして、学生がイメージしやすいよう工夫しています。それを入り口に、より高度な内容に入ってもらえたら、というのが目的です。私の目標は「目の前の学生だけを満足させるのではなく、授業を受けた学生たちが将来自分の子供たちに勧めたいと思える授業」です。親が満足してないと子供には勧めませんよね。目の前の学生たちが望んでいる以上の、満足度の高い授業を目指しています。

### Q：来年度への意気込みは？

急にダメにならないように、この水準を維持したいですね（笑）今年賞を取れた瞬間はとても嬉しかった。でも、目線はもう来年に向けています。プレッシャーは感じますが、チャレンジャーとして頑張りたいです。

### 受講生からの投票コメント



- ◆戦略を漫画やアイドルなどで分かりやすく説明しているのが楽しい。
- ◆多様な視点から説明していて分かりやすいし面白い。
- ◆レジュメがとにかく分かりやすい！難しい内容ですが、実際の企業を例に使われていて、身近に感じて分かりやすいです。

※コメントは、抜粋・整理したものです





## 「民法総則」

法学部  
熊谷 芝青 先生

### Q：受賞された感想はいかがですか？

私の講義というのは坦々とやっている講義なのですが、それでも選んでいただいた学生の皆さんに非常にありがたく思っています。

### Q：授業内で工夫していることはありますか？

板書が中心の講義なので、板書する内容については学生たちが復習しやすいように、十分に準備をして臨んでいます。法律は予習が難しいので講義で理解してもらい、復習に重点を置いてほしいですね。

また、板書するだけでは一方的な講義になってしまうので、C-Learningを活用しています。C-Learningの小テスト・アンケート機能を使い○×クイズ形式の問題を解答してもらいます。これは、学生に「授業に参加している」と実感してもらうこと、また私も学生もお互いに授業の理解度を知ること、の2点を目的としています。

出題する設問は、過去の司法試験で実際に出題された設問を随時出題しています。授業内で司法試験（短答式）や資格試験をリアルに感じる機会を1年次から作っています。

それら小テストなどの解説を通じて「聞いて初めて理解できた」「こういう視点が足りなかった」という発見をしてほしいです。問題に対して、正解することはもちろん素晴らしいですが、間違えても新しい学びとなります。学生にとってプラスになるので、小テストの回答正解率は成績に反映していません。学生一人一人の成長を楽しみにしています。

大学の授業は勉強の成果が分かりづらいですね。学生には、学習成果を講義で実感することで自信を持って、より深い学びに繋げてほしいです。私の講義を通じて資格試験を受験してみよう、司法試験に挑戦してみたい、など前向きに法律と向き合っていただけたら嬉しいです。

### Q：来年度への意気込みは？

毎年、より良い内容、問題の選定、解説の充実を考えて板書内容を更新しています。学生にとってより良い授業となるように、授業の仕込みに取り組みたいと思います。

### 受講生からの投票コメント



- ◆社会に出てから役に立つ知識を学ぶことができる。学部関係なく学んで損はない科目です。
- ◆法律の専門的な知識を実践的な形で身につけるため理解しやすい。
- ◆丁寧な解説と分かりやすい板書。学生の事を考えて授業しているのが伝わってくる。

※コメントは、抜粋・整理したものです

# 【もっと学びたいde賞】 全学共通科目 受賞科目インタビュー

BTA



## 「ドイツ語 I Ab」

総合教育研究部  
外国語部門  
吉中 俊貴 先生

### Q：受賞された感想はいかがですか？

去年同じドイツ語の畠山先生が受賞されて、自分も頑張らないといけないなと思って工夫した結果、自分も受賞することができたので、その嬉しさもありますね。

「もっと学びたいde賞」は、今年度限りではない興味・関心を持っていただけたということですよ。素直にとっても嬉しいです。

### Q：受賞された要因は何だと思われますか？

私の授業は極めてオーソドックスな、黒板と教科書を使用するアナログな授業なので、要因と言われると難しいです。私自身常に緊張するくらい真剣勝負で授業に臨んでいるので、その緊張感が学生に伝わって良いと思ってもらえたのかもしれない。

### Q：授業内で工夫していることはありますか？

必ず授業の最初に、ここまでいったら終わり、という出口を言うようにしています。なぜかという、学生さんに「ここまで集中して頑張ってみよう」というモチベーションと緊張感を持ってもらうためです。出口が見えないものをダラダラやっても、集中力は続きません。授業時間の90分をどう使うのか、かなり考えています。

時間配分についてはサッカーを参考にしています。サッカーでは45分経つとハーフタイムがありますが、あれは人間の集中力は40～50分程しか続かないため設けられています。私の授業でも40分くらい経ったら今までやってきたことから一旦離れて、5分間映画を観るなどリフレッシュしてもらい、その上で後半の40分に臨めるようにしています。

### Q：来年度への意気込みは？

今の学生が将来親になって子供を持ち、その子供が大学生になって第二外国語を選ぶときに、「とても楽しかったからドイツ語にしてみたら？」と言ってもらえたら、これ以上に嬉しいことはありません。先生1年目の当初から変わらず、時がたっても心に残る、人に伝えたいような「伝染力」のある授業を目標にしています。これからも緊張感を持って臨みたいですね。

### 受講生からの投票コメント



- ◆ドイツ語はもちろん、ドイツに興味を持つことができ、確実に自分自身の視野が広がったからです。
- ◆一番、授業の90分間を最大限に利用した講義だと感じました。
- ◆無駄の省かれた授業で集中できる。
- ◆ドイツ語を知ろうという意欲を持たた。

※コメントは、抜粋・整理したものです

# 【もっと学びたいde賞】 専門教育科目 受賞科目インタビュー

BTA



## 「マーケティング論」

経営学部  
兼村 栄哲 先生

### Q：受賞された感想はいかがですか？

正直嬉しかったです。受賞できたことは不思議です。なぜかという、以前も受賞しているのですが、私の授業は受講者から「悪魔」「鬼」と言われてしまうくらい、授業で教える内容が多いので、すごく高く評価する人と、ひどく不満と評価する人に二極化しているイメージがあります。そういう状況なので、あぁ今年も取れたんだっていう感じです。例年次点くらいに入賞しているので、高く評価して貰っていることを嬉しく思います。

### Q：授業について工夫していることはありますか？

私が意識していること、心掛けてることは、どんな発展していく社会に対応できる知識をたくさん与えるということです。私は教員になって25年ぐらいになりますが、25年ぐらい前の学生さんと比べると、今の学生はかなり基礎力が落ちています。そのため、私が知る限り多くの先生は、昔よりも授業で教える内容を少なくしていますが、私はその逆です。大学で教えているレベルではとても社会で太刀打ちできないので、昔教えていた量よりも増やすことを意識しています。学生を第一にして、授業を休講にはせず、必ず年6回の補講をします。そのため、授業の進捗はある程度遅くすることができ理解度を深めることができます。内容量は以前と変わらないぐらいずっと維持して実は少しずつ増やしています。200枚位のプリントを配りますし、板書もすごい量を書くのでノートまる1冊では収まらないくらいです。それでもちゃんと努力して勉強した人には必ず結果がついてくる。そんな授業を行っています。

### Q：学生に期待することはありますか？

「何のために大学に来たか」ということを意識してほしいです。例えば話ですけど、留学生の方で正直勉強よりも日本の文化に触れたいという人ならば、それはそれでいいと思います。日本の文化を知りたいならば、とことん知ってほしい。無駄な時間をダラダラ過ごすのではなく、日本中あらゆる所を旅行するとか、日本文化を深く知ってもらいたいです。あるいは、勉強しに来たのでしたら本当にとことん勉強して欲しいです。取り組む対象は何でも良いですが、対象を決めたらとことん勉強して欲しいです。後悔しないように何かに取り組む努力と行動力が大切です。

### 受講生からの投票コメント



- ◆難しい内容をより分かりやすく丁寧に、かつスピード良く教えてくれる。教養として学んでおくべきことも伝えてくれる。
- ◆基礎知識を、とても噛み砕いて説明して下さるので、自分自身の知識になっていると実感できる。
- ◆学びの本質を満たしていると思った。

※コメントは、抜粋・整理したものです



# 学生FDスタッフによる 授業コメントセレクション



今年度学生FDスタッフは、学生が「主体的に」取り組める授業が、駒澤大学の教育の質向上につながる良い教育だと考えました。

数多く寄せられたコメントから、テーマに沿ったコメントを一部抜粋してご紹介します！

※BTA受賞科目へのコメントは除く

※学生FDスタッフは学部学科順に匿名処理されたコメントからセレクトしており、科目名以外の情報を知りません

## 【禅文化史】大澤 邦由 先生

この講義はグループワークでみんなで話し合いを行ったり、実際にスクリーンで映像を見せながらの解説や学生による禅語の発表など学生が主体的に動く講義だと感じました。講義の進め方が幅広いので色々学ぶことができてとても良かったです。特にグループワークは他の講義ではあまり無いので新鮮味があり、他の人の意見を聞いたり、自分の意見をみんなに伝えて討論できたので、とても良かったと思いました。

## 【国語学研究Ⅰ】山本 真吾 先生

国語学的な観点からわかりやすく新しい知識を与えてくれる。余談も、説明も全てが面白い授業。4限の国語学研究Ⅰと5限の国語史を連続で受けているが、どちらも本当に面白い。熱意を持って授業にあたっていると伝わるし、こちらも頑張っ結果を残そうとする。ただ教えてくれるだけではなく、自分で考える、という思考力が身につく授業。こんな先生の授業を取って幸せだと本当に思っているし、もっと皆に受けてもらいたい授業。

## 【人文地理学】山口 太郎 先生

私たちの住んでいる東京やその近郊の風土や成り立ちについて詳しく知ることができ、通学時や休日などで実際に巡ることによってよりその理解が深まる科目であるから

## 【社会・集団・家族心理学（家族）】

藤田 博康 先生

児童虐待が社会問題となっている現代において、そのような問題が起こる原因や支援について、様々な資料を用い、生徒に考えさせる講義だったと感じたから。

## 【リスク社会論】伊藤 美登里 先生

20世紀後半の社会構造の変化とともに、リスク社会の観点が重視されている。東日本大震災以後、日本社会において身近にある原発問題を題材に、さまざまな角度からリスク意識をみていく授業の進め方に、大変関心を持ったため。

## 【経済理論・資本の原理 b】

羽島 有紀 先生

授業内容が分かりやすいだけではなく、学んだ理論を自分で現実の世界に応用して主体的に考えることが大切だということ、また、そうするためにはどうすればよいかを授業をとおして触れていただける点が、今後世界を理解したり自分のふるまいを決定したりするのに効果的だと考えたから。

## 【消費者法】永下 泰之 先生

消費者トラブルが絶えない昨今でこれから自分にも関わってくるであろう事例が扱われるので、興味が惹かれる講義であるからです。また、先生自身が実際に相談を受けたトラブルも紹介してくれ、「自分だったらどう対処すべきか」など思考力を働かせて話を聞く講義にもなりうるため、学生にとって一方通行な講義では終わらない点も魅力だと思います。

## 【経営管理論】渡辺 伊津子 先生

私は経営管理論を別名「人生教訓論」だと思っています。経営管理の知識は、経営の上に留まらず、人間が生きて上で大切なことを学べます。自分という企業の社長は自分で、人生(経営)の方針をどのように決定し、実行すればよいかを知ることができます。先生の口調も優しく、説明も分かりやすい言葉で噛み砕いたものが多いので、経営学部生にとどまらず全ての学生に受講してほしい科目です。

## 【倫理学】古田 知章 先生

これらを生きていく上でヒントとなる、先人たちの思考をじっくり学ぶことができる。どうすれば良く生きていけるのか、という問いを毎回の授業の度、またふとした瞬間に考えるきっかけになった。この授業を受講することができ、幸いだったと感じている。

## 【マーケティングコミュニケーション】

朴 正洙 先生

ソニーやヤフーなど、企業に勤めている人に企画書を提出しプレゼンをするという、普段は体験できないような貴重な機会を設けてくれたから。学んだことを実践するとても良い機会だったと思うから。

## 【ベンチャー企業論A】 小野瀬 拓 先生

ゲストスピーカーを通じて企業のビジョン、起業の過程、経営していく上での注意点、問題解決の対策、経営者の心構え、企業の実態をプレゼンの形で教えてくれて、とても勉強になったし、就職活動や将来の設計の参考になりました。先生が自らレポートやリアクションペーパーを設けることや、企業説明会などの活動を推薦することで、学生のキャリアアップにとてもためになりました。

## 【計算機言語論II】 近藤 啓介 先生

教科書を読むだけの一般的な授業ではなく、生徒一人一人の進行度に合わせた課題を用意し、生徒同士で話し合いながら解答していく。生徒同士で教え合うことで、教えた側も教えられた側も効率良く学ぶことができる。また、生徒からの質問に対してもしっかりと説明を全体に行うため、わからない部分を引きずることがない。この授業からは得られるものが多いと感じた。

## 【化学II】 持丸 真里 先生

持丸先生の授業は前半にその日扱う内容について少し触れた上に、生徒に考える余地を与える為なのか授業内課題を与えてくれます。その後、講義を受けていくと段々理解が深まっていき、最後に前半与えられた課題を解ける状態にしてくれます。90分という少ない時間でインプットとアウトプットが完璧にできてしまう素晴らしい授業であると感じます。もはや科目や講義といった形態は関係なく、頭の整理ができる何か楽しいイベントの様に感じています。

## 【日本文化探究II B】 内藤 寿子 先生

講義形式で受け身になりがちが授業が多い中、この授業は自分の意見や考えを毎週表現して言語化する機会があり、大学生にとっては貴重な授業だと思う。一緒に受講している人のコメントペーパーを共有してフィードバックすることで同じ課題に対して他の視点や自分が気が付かなかったことを知ることができて勉強になる。出席回数や穴埋めテストではなく、論述の試験で各個人の伸びを一人ひとり丁寧に見てくださるので就職活動に向けての文章を書く練習にもなりうる授業だと思う。

## 【健康・スポーツ論1】 鈴木 淳平 先生

スポーツの楽しさや、各種目の取り組み、筋肉の使い方、またスポーツにまつわる世界的な運動やスポーツ教育、オリンピックの歴史など様々な知識を得ることができました。それだけでなく駒澤大学や世田谷周辺の歴史などスポーツの枠にとられない楽しい授業を受けられました。半期だけでしたが相当印象深いので選ばせていただきました。

## 【道徳教育の研究】 鴨井 雅芳 先生

道徳教育について、体験談や視聴教材を用いており、生徒に対する道徳教育の必要性・大切さを学ぶことができます。教師を目指す者としてはおすすめしたい授業です。

## 【英語科教育法I】 千葉 克裕 先生

英語の教員を志望するものにとって非常に効果的な授業です。授業前半は予習を前提に教科書で教授法のセオリーについて勉強し、不明点についてクリアしていきます。後半は生徒による模擬授業です。ここでは年間3度にわたって各20分間のデモンストレーションを行います。ただ行うだけでなくオブザーバー及び先生から建設的なフィードバックを受けられます。また、教育法だけでなく、マインドマップや多読など、英語という科目を超えて勉強の仕方そのものや英語力強化についても学べます。毎週先生としっかりとしたやり取りの中、高い緊張感で行われるのでクラスの雰囲気もよく、高いモチベーションを維持して勉強したい学生に自信を持ってお勧めできます。



投票してくださった学生の皆さん  
多くのコメント・投票をありがとうございました



この冊子に掲載できなかった科目に関する**全てのコメント**はこちらに掲載されています。履修の参考にぜひご確認ください！



【BTAコメント総集】をクリック 



# 学生FDスタッフ（第4期）

## 学生FDスタッフとは？

この団体は体育会でも、サークルでもない大学直属の学生機関です。  
 学生による学生目線の教育改善を目指して、各学部生や多彩な教職員と共に「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」などのイベント企画、広報、運営を行います。  
 2016年度から結成し、今年で第4期となりました。全学から集まった15名で活動中です。



## 学生FDスタッフ活動内容（2019年度）

- 4月 学生FDスタッフ募集
- 5月 学生FDスタッフ結成
- 6～8月 BTA準備、活動内容検討
- 10月 BTA広報活動開始
- 11月 BTA投票期間
- 12月 BTA選考・授賞式  
受賞者インタビュー
- 1月 学長との意見交換会
- 2～3月 報告書記事作成・編集

### 1年

文学部歴史学科	小泉	千慧
文学部社会学科	矢吹	優
経済学部商学科	新海	翔一郎
	和田	淳志

### 2年

経済学部経済学科	三橋	進之介
	前田	京香

### 3年

文学部社会学科	八木	秀樹
経済学部経済学科	郝	一多
	揚原	松叡
経済学部商学科	深澤	魁斗
GMS学部GM学科	平塚	陸太
	大谷	菜摘

### 4年

GMS学部GM学科	柴村	大輝
	井上	虎太
	氏家	瑠美

## 学生FDスタッフ編集後記

私たち学生FDスタッフはこの一年間、学校の教育をより良くするために様々な活動を行ってきました。特にベスト・ティーチング賞においてはどうすれば学生の皆さんにBTAについて興味を持ってもらい、そして回答に協力してくれるかを真剣に考え実行してきました。思わず立ち止まって観たくなるような広報動画、Twitter上での広報、そしてピア配布による広報など、回答をしてもらうために様々な工夫をしてきました。結果、今までのBTAの中で最多の有効回答数を得ることができました。

しかしいくら回答数を得ても、そのフィードバックを疎かにしてしまえば意味はなくなってしまいます。今ご覧のパンフレットにはBTAを受賞された先生方へのインタビューの他にも、数多く寄せられた授業に対するコメントから学生FDスタッフが厳選したコメントを掲載しています。また（p.12）掲載のQRコードを読み取ってもらうことで様々な授業に対する実際に受講した学生の感想を見ることができます。ぜひご覧ください！

最後に、ベスト・ティーチング賞を決めるために回答をして下さった学生の皆様、何から何まで手厚くサポートをして下さった大学の職員の皆様そして先生方、何よりも一緒に活動してきた学生FDスタッフのメンバー全員に心からお礼申し上げます。

本当にありがとうございました！（代表 深澤 魁斗）

## 担当教職員

文学部	佐々木 真
総合教育研究部	内藤 寿子
経営学部	村松 幹二
GMS学部	石橋 直樹
教務部	鈴木 弘道
教務部	板橋 幸子
教務部	中村 暁信
教務部	谷国 遼

FDスタッフの皆さん  
 大変お疲れ様でした！  
 そして第5期学生FDスタッフも  
 募集中です！！  
 興味のある方  
 ご参加お待ちしております！



## 令和元年度 学生が選ぶベスト・ティーチング賞 について

駒澤大学FD推進委員会  
駒澤大学FD推進委員会小委員会

令和元年12月16日（月）に、中央講堂において、第4回「学生が選ぶベスト・ティーチング賞（Best Teaching Award；以下、BTAと略称）」の授賞式が行われた。BTAとは、学生から見て効果的な教育方法を実践する教員を表彰し、その教育方法を全学的に共有することで、学生目線による教育の質の向をめざすイベントである。「ベスト・ティーチング」とあるように、これは単なる教員の人気投票ではなく、その内容が評価できると学生が感じた授業を具体的な理由も添えて投票することとなっている。

賞の内容や質問項目の選定、広報などの実際の活動は、学生FDスタッフ第4期生により行われた。4期生は文学部3名、経済学部7名、GMS学部5名の計15名から構成され、6月より具体的な活動を開始した。授業を多角的に評価するべきであるとの意見から、今年度は部門賞の設定が議論され、「学生が主体的に学びたい」と感じる授業が駒澤大学の教育の質向上につながると考え、「もっと学びたいde賞」部門が新設された。

投票は後期の「学生による授業アンケート」実施期間（11月4日から23日）にC-Learningシステムを利用して実施され、回答者数が1,466名であった（うち、無効票89票）。投票結果に基づく学生FDスタッフによる選考、およびFD推進委員会の了承のもと、全学共通科目分野と専門教育科目分野で、「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」各3名、「もっと学びたいde賞」が各1名の合計8名が選ばれた。授賞式では、FD推進委員会委員長である長谷部八朗学長より受賞者に表彰状が授与され、学生FDスタッフから花束が贈呈された。

令和2年2月10日には、小野洋平、畠山寛、中村公一の各先生をお招きして、令和元年度第3回FD研修会が実施された。ここでは、受賞者の講演（各授業内容の紹介）とパネル・ディスカッション形式での意見交換が行われた。ここで印象深かったのが、いずれの授業もフィードバックなどを通じて学生との双方向性が確保されており、学生の授業への参加意識が高いこと、講義内容と学生の日常とをリンクさせる工夫が見られることなどであった。研修会参加者が得たことも多かったようで、学生目線で行われるBTAは本学の教育の質向上に貢献していることが実感された。内容の改善をはかりつつ、この試みをよりよいものとして継続していきたい。

Created by **FD** staffs and committees

